

【議題】

あいさつ

- 1 調査研究テーマ「自治会・町会の現状と連携・協働ニーズ」の進捗状況について
- 2 地域力応援基金助成事業について
- 3 その他

【出席者】

勝又委員 加藤委員 内藤委員 中島委員 石垣委員
石川委員 杉崎委員 山本委員 牛山委員

地域振興部地域力・国際都市担当部長 区民協働担当課長 地域力連携協働支援員
区民協働担当 2名

【会議録】

事務局 定刻になりましたので、平成25年度第5回大田区区民協働推進会議を始めさせていただきます。
本日、委員9名の方にご出席していただいておりますので、大田区区民協働推進会議設置要綱第6条に基づき、会議は有効に成立したことをご報告申し上げます。
なお、議事録作成のため、本日の会議を録音させていただきますのでご承知ください。

会長 《会長あいさつ》

部長 《部長あいさつ》

事務局 ありがとうございます。この後は、会長に進行をお願いします。

会長 それでは、調査研究テーマ「自治会・町会の現状と連携・協働ニーズ」の進捗状況について、本日はアンケート集計結果を事前に送付させていただいておりますが、支援員から説明をお願いします。

〈集計結果資料に基づき説明〉

支援員 この集計結果を基に大田区の施策として進めていくこととなりますが、自治会・町会だけで取り組んでいても解決策は見いだすことは難しいと思います。地域の中で異なる団体が共に取り組んでこそ効果が出てくると考え、そのような事業をモデル的に実施していくことが今後は必要であると考えます。また、新しい人材の確保については、このデータを基にして、どのような分野の取り組みが実際のモデルになるのだろうかということを考えていきたいと思っています。
本日は、調査結果への質問、調査分析への意見などいろいろあると思いますが、話の焦

点としては、アンケート結果を活かし、どのようなモデル的な事業の取り組みとして、どのような部分に力を入れていくのが良いのかというところに皆さんからの意見をいただきたいと思います。

委員 有効回答の扱いが揃っていないように思います。よく回答してくれていると思いますが、設問によってはあまり回答していないところもありますね。

会長 自分には関係ないと思い、無関心な町会もあると思います。大田区は大森、調布、蒲田と三つの地域に分かれ、其々が6地区で、全部で18地区があります。問題は共通する部分もあれば、まったく関係ないものもあり、答えられなかったのだらうと推測できます。万弁なくすべてに答えてもらおうとすると無理が生じると私は判断しています。

委員 会長のおっしゃったこともとても重要であると思います。基本情報が地区によりばらつきがあるという部分は分析が必要と感じます。どういう地区でどのような回答があったかということが重要と考えます。実際のところどういう町会がどういう問題を抱えているか、どのような意識があるのかなどの分析がないと、具体的な提案をしていくためのデータとして不十分に感じます。

委員 有効回答の見方や地区の見方などクロスして、最終的にどのように表記するかだと思います。

支援員 基本情報の部分は集計がまだできていない状況です。有効回答の表現の仕方がおかしければ修正していきます。記述式の部分については、どの地区で何が多かったということより、進んだ取り組みがあるかなどの把握に繋げることが、このニーズ調査の一番のねらいであると考えています。本日は情報として伝えられないところもありますが、ある分野ですでに進んだ取り組みを行っている町会があれば、ヒアリングなどを行ってもう少し詳しく調査し、その取り組み方を他の自治会・町会に知っていただければと考えています。

会長 はっきり3地域に分類していただくと必要の有無が見え、地区における連携協働の内容が浮き彫りになると思います。

委員 大田区全域の自治会・町会にこれだけのアンケートを実施し、回答率が80%ということが評価できることと思います。アンケートを行うことにより、自治会が自分の現状を振り返るきっかけになり良いことと思います。本日の説明で、施策を作る等の説明がありましたが、アンケートの目的をもう少し明確に確認をさせていただきたいと思います。

会長 大田区では217自治会・町会がありますが、運営が厳しい状況です。人材・財政・事業の合理化に取り組んでいます。大田区自治会連合会で検討を続けていますが、簡単

に解決できるものではありません。例えば、回覧、チラシなどを全部町会に置いていかれる状況がありますが、管理人を置いているところもあればないところもあり、合理化を図りたいと考えています。また、以前から抛出している分担金の問題も困窮する中、合理化を図っていきたいと思っています。

委員 前回の中間方向で、自治会・町会の課題では、人材確保・事業の効率化・財政基盤強化と大きなテーマがあるとお聞きしました。今回のアンケートは、人材を補うための連携協働を中心としておりますが、他の部分はどうされるのですか。

会長 ここは連携協働を検討するための会議体なので、町会の現状がわからないと納得できないこともあるかと思います。今できない部分をどうするか、本当は連携協働というのは町会に限らず、どのような組織体においても必要なものだと思います。これまで基金からの助成金へのチャレンジは、ほとんどがNPOやボランティア団体が行っており、町会の申請はとても少ない状況です。新しい発想で専門的なことに着手したくても取り組む人材がいないことが大きな問題で、連携協働について実は町会が一番遅れていると感じていました。人材確保の方法や基金事業へのチャレンジなどもこういう会議体で検討いただき、何らかの取り組みに結びつけていきたいという目的もあり、アンケートをご提案させていただきました。

支援員 自治会・町会のあり方検討会の中間報告は、大田区自治会連合会が行い、この中で3つのテーマが立てられました。今回の調査はこれとは別のもので、自治会・町会の背景を知っていただくためにお話したものです。この会議は、区民協働推進会議で、まさに協働というところにテーマが置かれているので、自治会・町会とNPO・ボランティア団体などが協働することによる人材確保の部分に焦点をあてて実施しています。

委員 基本情報も報告書に載せてください。具体的に先進的な取り組みの判断は誰がするのですか。

支援員 皆さんの知見によるものと考えます。本日の資料では判断できないと思います。本日は情報としては出せませんでした

委員 次回に判断できるような資料が出されるのですね。どこで何をやっているのかなどの情報があつた方がよいと思います。

会長 アンケートは雑駁なものですが資料の一つとなることは確かなので、これはこれで良いと思います。今の意見を最初からやってしまうと大変なことになります。これだけのアンケート結果が出ているのですから、ここからポイントを絞り、要点をピックアップしていただけるとよいと思います。その中で選択していかないとなかなか進まないと思います。3地域に特異性がありますので区分してください。

部長 アンケート結果から読み取れる問題点や課題を抽出し、皆さんが共有のものとして確認いただけるなら、その課題を中心に残り2回しかない会議体の中で効率的に検討いただけたと考えます。今回は中間報告ということで出させていただきました。ここから調査をやった傾向が出てきたと感じています。次回は大森・調布・蒲田の3地域に区分し、分野別に読み取れる傾向などをお示しできればと思います。本日の段階では、町会の現状を知っていただいたというところまででお願いします。また、自治会・町会の現状等でわからないところは、会長に質問していただくことでお願いします。

委員 今回のアンケートと経過観察からの状況で、説明のあったモデル事業になると思われる例をお話します。東調布中学校で実施された自治会・町会、学校地域支援本部、消防、学校長、中学生とまだNPOにはなっていない縁プロジェクトというボランティア団体の取り組みは、地縁団体と区民団体との連携というところでは、助成金を交付して行っていくべきモデル的な事業で、経過なども確認し事例として残していける良い活動だと思いました。特に縁プロジェクトは防災のコンサルティングとしての力がありますので、お金とマンパワーがあれば、土台がない自治会・町会の力となり、他の学校でも実施できるものと思われれます。

会長 自分の住んでいる場所であるにも関わらず、自治会・町会を知らない人がたくさんいます。あらゆる分野を担っている団体なのに「町会って何をやっているのですか」と言われると情けなくなります。町会にも旧態依然とした状態をいつまでも続けているという反省点もあり、それをもう一度見直す機会となるのがこのアンケート調査であると考えています。町会の仕事も多様化し、若い人が担ってくれないとこの先はありません。現状を踏まえ、別の仕組みをつくるのが急務であると強く感じます。

委員 このアンケート調査をこの会議の場で取り組むというのは、協働・連携を行えば、基本事業に手を挙げられるということが前提で行っているのですか。

支援員 仮説ではありますがそういうことです。

委員 集計結果の解釈としては、ボランティア団体と協働する意識について、回答からは町会には協働についての関心が低いのが現状であると読み取れます。

支援員 現状はそのとおりであると思いますが、どのような対策を立てるか考えた時、全体を底上げするのではなく、まずは取り組みのあるところから活動を広げていくのも一つのアプローチではないかと思っています。大田区の未来プランにも地域力を高めるための連携・協働を打ち出しています。その未来プランにも掲げられている方向性に従って展開することが有効であると考え実施しています。

委員 興味深く読ませていただきました。

昨日地元で会合があり、自治会・町会とNPOなどの活動に距離があるという話が出ました。町会活動は、昔から良い活動を行っているにも関わらず、加入率も下降し、人材確保が難しく役員をやる人がいなくなっているのが現状です。それを打開するために、協働という手法を使って新しい動きを見出していくことができればということで、今回のアンケート調査に着手したと考えています。

委員　　これまで、地区の理事会等の会議に出席していますが、協働という視点の話が出たことはありません。連合会長や町会長、特別出張所長達にご存じかもしれませんが、中枢の方々以外に浸透していません。経過観察にも行ったので、先日地域の会合時に連携協働の話をしてみましたが皆理解できないようでした。協働を理解してもらう機会をたくさん作る必要があると思います。地区の理事会などにも話を出していくべきだと思います。

会長　　本日の話は連合会長に話した上で進めています。単会までは詳細な説明をしていません。

課長　　18地区連合会で説明し、筋道を立ててアンケートを実施したかからこそ83%の回答率があったと思います。人材確保という面で困っているということなので、区民協働の切り口で解決策を見出していきたいと考えています。

会長　　自治会長達が、自分の会員に自分の言葉で話していくことがとても大切であると思います。それをやらないと心が通じません。そこを重要視してお願いします。

委員　　自治会・町会での取り組み内容がたくさん回答されているが、この活動すべてが、自治会・町会の中だけで完結できるとは思えないので、協働という形で取り組んでいくことが必要であると感じました。そもそも私達の活動は助け合いの環境を作る目的で始めたものです。小さなグループだけでなく、社会福祉協議会の力も借りて地域で活動しましたが、町会の婦人部や老人会の方々などに声をかけ、一緒にやろうと一年程実施しましたが、結果的には、良い評価があってもグループが増えていく活動には結び付けていくことはできませんでした。それはなぜなのかと思いながら20年近くやってきました。私達自身は支え合いという社会福祉を考えながら始めました。グループは増えず、あとは訪問介護事業など事業化していくわけですが、事業を行うのが目的ではなく、支え合える地域を作りたいというのがNPO等の立脚点なので、町会の方々とはそのところを一緒にやりたいと思っています。先日、経過観察で行った先が町会でした。地域の方々へ話すために講演会を企画し、相談活動を行い、便利屋を育てて地域の中で孤独死が出ないようなまちをつくりたいという中心メンバーの想いが伝わるものでした。その実現の方法として、即、組織的な構造を作らず、まずは相談活動を行い、便利屋を形成していくというアプローチの違いは、地域の中に時代の流れを感じました。

委員　　自分の親は企業戦士であったため、地域との関係は一切持っていませんでしたが、私がPTA会長をやっていたため、ボランティア活動については理解しています。私の地域

には町会の運動会があるので、その場に若手の方々に積極的に関わりを持ってもらい、次世代後継者として育てていこうとしていると思います。町会長達もPTAに声をかけて、町会活動に関係してもらおう形があたりまえになっています。民生委員もPTA会長や副会長経験者から選出されていきます。私の近隣では、私達の親世代から若い世代に交代している状況があります。若い人達を地域に引き込むチャンスだと思います。先程、地域の会合で連携協働のお話をしても認識されないのご意見がありましたが、私もまだまだ理解されていないことの方が多いと感じます。地域のイベントや活動の中で、一緒に活動したり、知っていただけるような説明の場を作ったりして、現役員や若い世代ともマッチングを図っていけると良いと思います。

委員 私は団体に属していますので、NPOやボランティア団体がわからないという結果がとても残念です。団体側からすると自治会・町会と連携をとりたいと思っていますし、現に連携をとり、一緒に活動している団体もありますが、敷居が高くて、どのようにアプローチして協働に結び付けていけばいいのかわからないと悩んでいる声もたくさんあるのです。きっかけをどのように作ればいいのかかわからないというのが団体側も感じていることです。実際に町会との関わりを持って活動を行っていますが、町会の要望を確認しながら進めていても、状況をすべて把握している訳ではないので、意思の疎通が難しいことも多々あるのが現状です。

会長 みんな連携したいと思っているのです。自治会・町会やNPOやボランティア団体、様々な組織体がありますが、お互い同士だけでは連携協働ができないという実態があります。以前より行政に結びつける役どころを担って欲しいと言ってきた経過があります。

委員 事例として、六郷用水の会で聞き書きをすることになり、大田区全域に六郷用水は流れていたの、各々の地域の中で昔のことを知っている方を紹介いただきたいと考え、特別出張所経由で町会長さんや役員の方々からお話を聞くことで接点を持ったことがあります。また、防災まちづくり研究会というものを作り、リタイア世代と若い活発な女性の団体と一緒に、なかなか接点の持てない自治会に防災を切り口に意見交換を行いませんかと声をかけました。会長も団体と接点を前から持ちたかったとのことで、町会側の役員と団体側とで意見交換を行い、良い機会が持てました。昔のことを聞くというテーマ、防災というテーマは、地域の中でやっていくのに良かったです。きっかけをつくるのに『テーマ』が何かというのが重要であると思います。

会長 以前この推進会議の中でも防災をテーマとして何年も検討したことがありましたが、その時の委員は防災のことは何もやっていなかったため、町会の独壇場になってしまったことがありました。其々の立場で防災についての考えや今後の取り組みについて検討したいと思いましたがうまくいきませんでした。これからの時代はそんなことを言うてはいられません。防災は皆で検討すべき良いテーマだと思います。

委員 今回、町会とNPOやボランティア団体と連携しようというのは私も賛成ですが、具体

的な事例というのはどのようなものになるのでしょうか。やはりせっかくアンケートを行ったわけですから、そこから導き出される事例がどのようなものかが重要であると思います。

部長 連携協働の事例がとても少ないため、今回アンケートを行い、何を欲しているのかニーズの調査を行いましたので、本日はニーズの読み取りをしていただきたいと思います。

支援員 区民活動コーディネーター養成講座の中では、少ないながらも協働で実施している良い事例を見つけて紹介しているので、把握しているものはあります。それはそれとして、今回のような全体に対しての調査から見つかるものがあるでしょうし、実施状況で確認できることもありますので、統合させながら作っていきたいと思っています。また、NPOやボランティア団体との連携だけでなく、若い人を取り込んでいる事例等もありましたので、そのようなものを出していただくのがこの場であると考えています。そこがクロスしてくる部分であると思いますので、ご意見をお願いします。

委員 提案として、事例が結果につながるのであれば、自治会・町会などの会議の場で、連携協働の良い事例発表を行っていけば、ある程度定着するのではないかと思います。

会長 今回はこのアンケートの内容の確認と整理ですので、本日の意見も踏まえてまとめ、また次回に検討を行いたいと思います。それでは「地域力応援基金助成事業について」事務局からお願いします。

事務局 地域力応援基金助成事業について、皆さまからご意見をお願いしたいと思います。4月からこの助成事業につきまして、審査や経過観察などを通して関わっていただいているところです。今年度は1月に継続の面接が残っていますが、来年また審査をお願いしていくこととなりますので、ここまでのところでお気づきの点や感じたことなどの意見を忌憚なくいただきたいと思います。

会長 本日は時間もあまりないので、この場で意見を出すのではなく、家でじっくり考えていただいた方が良いと思います。

事務局 それでは、本日はお持ち帰りいただき、次回までに提出ということでお願いします。

委員 意見を出したら、どのような取り扱いになるのですか。

事務局 ご意見については、すぐできるもの、少し時間がかかるもの等に整理を行い、次回、次次回に回答していきたいと思っています。

会長 最後に、次回の推進会議の日程を決めたいと思いますので、事務局からお願いします。

- < 第6回 区民協働推進会議 2月3日(月)開催 >
- < 第7回 区民協働推進会議 3月4日(火)開催 >

会長 本日も有意義なご意見をたくさんいただきました。これで会議を終了させていただきます皆様、本日はありがとうございました。

< 終 了 >